

# 理事長挨拶

## 学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 役



令和7年度施行の改正私立学校法では、理事会が意思決定機関、評議員会が諮問機関という基本的な枠組みは維持されるものの、評議員会の役割の重要性が高まる内容ですが、令和6年度は、本学園の寄附行為の改正を理事会で決議し文部科学省に認可申請するとともに、内部統制システムの整備も行いました。また、「加計学園ビジョン2026」を目指してスタートした第2期中期計画（2022～2026年度）の6つのビジョンを実現するために、3年目の計画を実行して参りました。計画通りの成果もありますが、一部未達成になっている計画については今後の課題として次年度の計画に盛り込みながら中期計画を進めて参りたいと思います。

岡山理科大学では、学生から、地域から、社会から選ばれる大学を目指して参りましたが、令和6年度は、世界から選ばれる大学という視点を新たに加え、英国の高等教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの世界大学ランキングにランクインを果たしました。また、学修に場所と時間を選ばない通信制教育課程＝通信教育部情報理工学部の設置を文部科学省より認可を得て次年度より日本の学生のみならず、海外の学生も日本の学士教育を受けられる機会を提供できる体制を構築しました。また学内の研究推進体制を一層強化し、研究力の指標としての科研費配分額が4年連続で中国四国地区の私立大学でトップとなりました。

倉敷芸術科学大学では、令和6年度入学生から学士課程の枠組みを従来型（教養科目＋専攻科目）からA&S教育（Basic Program＋Advanced Program）へと転換しました。さらに倉敷芸術科学大学ビジョン2031で謳った「学生主体の大学づくり」のための多面的施策として、従来の図書館機能を図書館2階に集約し、1階スペース全体を学生の主体的な学びや自主的なグループ活動の場（アカデミックコモンズ）として整備し、その一画に設置したアカデミック・アドバイジングデスクにはアカデミックアドバイザー1名を配置しました。また、高等教育評価機構による認証評価においては適合の評価を得ました。

千葉科学大学では、公立化に向け銚子市と協議を重ねて参りましたが、銚子市の要望の一つである私立大学として継続運営するため、他の法人への事業譲渡について検討を重ね、令和7年3月に大城学園と設置者変更の契約書を締結しました。一方、高等教育評価機構による認証評価においては適合の評価を得ました。

専門学校、附属高等学校・中学校及びこども園においても中期計画3年目を着実に実行して参りました。最後に、令和6年6月に理事会にて理事長の交代が決議され、理事長に就任しましたが、将来にわたり「選ばれる学園」づくりに向け、「組織の構造改革」、「教育・研究」、「キャリア・就職」、「広報」、「財務」の5本柱を重点項目として掲げました。改正私立学校法の趣旨に賛同しガバナンス体制を強化しつつ、新たな時代に必要とされる学園を目指して取り組んで参ります。